

働方法と、処遇に反映するシステムを検討する必要がある」と為政者の代弁をしているに過ぎません。

教員評価システム導入の真の狙いを深く学習しながら本質を見抜き、本県教育の未来のために腰を据えて取組まなければならない課題です。

## 自治研 春の講演会

日時;5月14日午後6時～8時

場所;県民福祉プラザ

演題;財政改革の会計学  
青森県「財政改革プランの検討

講師;八戸大学教授 田中 哲氏

参加費は無料

## 子どもたちの「戦争と平和」

### その1. 高校生・A子さんの手紙で綴るイラク攻撃

青森高教組 谷崎 嘉治

『私は、これ以上無実の人が死んでいくのを黙って見ていられないと思い、学校で署名を集めました。

本当は、少し前から活動していたのですが、春休みに重なってしまい、署名運動ができずに、遅くなってしまいました。

しかし、今も戦争は続いています。なんとかして、戦争を止めたいと思っています。私たちの力では何も出来ないかもしれませんが、全世界の人々が力を合わせれば、アクションは起こせると思います。

私たちの署名が戦争反対運動のお力になれば幸いです。

4月9日』

(「イラク戦争反対」署名に添えられたA子さんの手紙)

#### ●イラク攻撃反対運動

3月11日

・国連内は米英が提出した新しいイラク攻撃容認決議案を巡って、多数派工作の最中。

・青森県公務共闘は四日間の連続早朝憲法街宣スタート。

3月17日

・ブッシュ大統領がイラクに最後通告。

・憲法ネット青森は県内キャラバンスタート。

3月は年度末の諸会議や人事異動に関する県教委との交渉など、例年忙しいが、今年は米英のイラク先制攻撃が必至という緊迫した国際情勢の真っ只中。

先輩諸氏が誓った「教え子を再び戦場に送らない」運動の原点を胸にきざみ、子どもに戦争の世紀を残さない決意をあらたにして、連日、マイクを持ってイラク攻撃反対の街頭宣伝にとりくんでいた。

朝は、忙しそうに通勤する人の中でも、バス待ちでちょっと耳を傾けてくれる人もいる。

昼は、団地、スーパー前は人通りも少なく、誰を相手に話したらよいかと、とまどうことが多い。

3月20日

- ・米英軍、イラク先制攻撃開始。
- ・前日、憲法ネット青森は緊急集会開催。

この先制攻撃は国際法上の根拠をもたず、明らかな国連憲章違反である。罪のない人々が「正義」のために殺されていく。こんな無法が、今、現実に歴史に刻まれている。歴史上類を見ない、世界の反戦運動の昂揚も、無法勢力には無力なのかと憂鬱な気持ちになった。

学校は無反応なのか、何の連絡も入らない。

#### ●高教組書記局に高校生A子さんから電話

3月17日、午後7時、書記局に組合員Bを介して高校生のA子さんから電話が入った。

B「生徒がイラク戦争反対のために何か行動をしたいと言っている。話を聞いてやってほしい」

A「私たちにできることは何でしょうか、それはどうすればできるのでしょうか」  
私「イラク戦争反対の署名を友人と広げてはどうか。インターネットHPから、署名を取り寄せることができるよ」とアドバイスした。

気持ちが弾んでくる。平和を求める高校生はいる。確かに人はいる。

3月21日

- ・東京渋谷区の宮下公園で行われた全国高校生平和集会（全国高校生平和大集会実行委員会主催）に1,500人が参加。

「説明責任（Accountability）を果たす」「学校を開く」とは、今や、行政が積極的に述べ、推進しています。

教育改革は、公共サービス改革として、

- ①サービスの縮小と民営化、
- ②競争原理の徹底と効率化、
- ③市場（生徒、保護者）の需要に応じた商品（学校）の供給、
- ④企画立案・管理機関（教育委員会）と実施機関（学校）を分離、
- ⑤実施機関の長（経営者）が経営計画・目標・計画を策定、
- ⑥予算交付→実施→自己・外部評価→次年度計画・人事・予算変更（経営的手法の導入）、
- ⑦中間管理職・教職員は数値目標達成に従事、業績主義的人事・給与制度で管理、
- ⑧以上を対外的に公表して「納税者への説明責任を果たす」、

を実現することを明確にしてきました。このあり方をNPMと呼んでいます。

教育に対する攻撃の内容は全面展開でありながら、一見して納税者（父母）の要求にもとづいているように見せかけています。

#### 4. 青森県の検討内容

第1回検討委員会の資料（県教委が準備した）によると、

（1）国の動向（中央教育審議会答申、公務員制度改革大綱、経済財政諮問会議）から、「人材育成を目指した評価制度として再構築する必要がある」と指摘されている。したがって、**能力、実績等を適正に評価するしくみを検討する必要がある。**

（2）教員評価の仕組みや評価の方法を検討し、

（3）評価結果の活用として、各県は「人材、能力開発への活用」「指導不適切教員への対応」「適正な人事配置への活用」「給与上への反映」を検討している。

と、記述しています（主要論点を整理して抜粋）。

つまり、青森県教育委員会は、青森の子どもと教育に対する必要性から言っているのではなく、「政府・財界が要請しているので、教員評

---

## 昔「勤評」、今「評価システム」

---

理事 谷崎 嘉治

### 1. 教員評価システムの検討開始

1月22日、ついに青森県においても、第一回教員の評価システム調査検討委員会（現職教員を排除）が開催されました。これは、教員評価システムの全国導入をめざす文科省の指導にもとづいてすすめられているものです。

### 2. 東京の例

東京都教育委員会は、学校の管理運営事項として組合の交渉を一切拒否したまま、2000年度から「人事考課制度」として導入しました。「学習指導、生活指導、進路指導、学校運営、特別活動、その他」の項目を「能力、情意、実績」の要素で評価しています。

この評価にもとづいて、「指導力不足教員」の排除、低評価者の昇給延伸、「優秀教員」の特別昇格・昇給、強制的な人事異動や研修強要、能力不足管理職の降格等々が実際に行われています。

東京だけでなく、神奈川、大阪、香川、広島で既に「新たな勤務評定」として実施されています。部活指導で優秀な成績を上げた教員の待遇改善、などという岐阜も現れました。

### 3. NPM (New Public Management:新しい行政経営)

現在進行している教員評価システムは、自民党や文部省が一貫して追及してきた従来型の「教員の統制管理の実現」、軍国主義復活に対する警戒論的な内容で捉えることは不十分です。新自由主義的構造改革と新国家主義台頭のなかですすめられている教育改革として捉える必要があります。

### ●HR で呼びかけた A 子さんの取り組み

4月24日、「全国高校生平和大会」ホームページで、A子さんの取り組みが紹介された。

「Aさんは、『イラクの子たちが泣いて苦しんでいる。止めるために何かできないのか』と学校で署名を集めています。ホームルームの前に『私はイラク戦争に反対です。同じ意見の人がいたら署名してほしい』と呼びかけると、クラス中にまわされ、ほとんどの人が書いてくれました。Aさんは『5月4日に参加して、全国の人たちとがんばりたい』と話しています」

### ●4月から高校数学教師として職場に復帰

4月10日

・イラク・バグダット陥落。

久しぶりに戻った学校は、国内情勢、国際情勢には何の関わりもなく動いているように見える。歴史に残る情勢に、教師も生徒もまるで無関係な不思議な世界。

「イラク」「バグダット」「戦争」・・・といった単語が全く聞こえてこない。ましてや、教育基本法、憲法、有事立法はいわんやおや。

整然と行事、授業は行われている。社会の影響は生徒のサブカルチャーとして表れ、結構、教師はその対応に追われている。

平和憲法の担い手は誰がそだてるのか。憲法と教育基本法が平和的な国家の形成者を育てるわけではない。その憲法と教育基本法すら今や危機に晒されている。

### ●A子さんから寄せられた集会参加の報告

5月4日

・再び東京渋谷区宮下公園で行われた全国高校生平和大会（全国高校生平和

大集会実行委員会主催)に、800人が参加。

集会後、A子さんから、A子さんと友人の二人が集会に参加するためにカンパ活動に取り組んだ青森高教組組合員へのお礼の手紙が届いた。

『私は、5月4日、全国高校生平和集会に参加するために東京へ行って参りました。クラスみんなが布に書いてくれたメッセージを持って渋谷の宮下公園へ行きました。

全国の高校生はととてもすばらしいです。戦争反対と「No War!」「平和一番」などの言葉を書いて、自己アピールしていました。

宮下公園では、ピースライブやイラクのバグダットで看護活動をしていた方の話を聞いたり、各県・学校・地域からの取り組み紹介を聞きました。

私も学校の取り組みとして、みんなの前に出て、自分がおこなった活動を紹介しました。

その後ピースウォークに参加しました。宮下公園→原宿→代々木公園とパレードしました。

私は、同じ考えの高校生が800人も集まったことに感動しました。一人の力では戦争を止めることはできないけれど、たくさんの方が協力すれば、本当に戦争はなくなるのではないかと、私たちの力でアクションを起こせるのではないかと本当にそう思いました。

私は、この活動に参加して、本当によかったです。高校生活の中で、忘れられない思い出になると思います。

罪のない人が死ぬのはとても悲しいです。平和な世の中が一番なんだとあらためて思いました。

今回、このような体験ができたのは、T先生をはじめとするたくさんの先生方の支えがあったからだと思います。応援して下さった方々に感謝しています。このような貴重な体験をさせて頂きまして、本当にありがとうございました。』

## 青森県地域自治体問題研究所 会報

2004年4月30日 第18号

【事務局】弘前大学農学部生命科学部 神田健策

〒036-8561 弘前市文京町3 TEL 0172-39-3828

The logo for '自治研' (Jichiryū) is displayed in a stylized, bold font within an oval border. The characters are thick and black, with a slight shadow effect.

### 信念と希望を持ち続けていますか

理事 三津谷 恵

私が気に入っている、田中孝顕監修「図解思考は現実化する」(きこ書房)の中に、「人が熱意を持って考え、できると明確に信じたことはすべて実現できる」とある。この熱意とは、ある対象に向けて人を積極的に行動させる心の状態、エンスージアズムともいう。磁石が鉄粉を引き寄せるように人を引きつけ、他の人々に伝染する性質を持っている。また、エンスージアズムは、自分の中から引き出すより、それを持続することのほうが難しい。エンスージアズムを持続するには、それが定着しやすい環境を自分の中につくること。「好きなこと」と「仕事」を結びつけられたら、信念の形成も容易である。願望が信念によって支えられていることが、エンスージアズムが最も定着しやすい環境である。

エンスージアズムは行動から生まれると言ったのは W・クレメント・ストーンである。彼は次のように語った。「ご存知のように、感情は理性にすぐさま従うというものではない。しかし、精神的にせよ、肉体的にせよ、感情は行動に即座に従う。また、同じ思考や行動の繰り返しは習慣となる。頻繁に繰り返せば、無意識的な反射作用になる」。

最後に、自治研編集「住民と自治」の購読をお勧めしたい。様々な事情で自治研活動に参加できないことも多い。毎月「住民と自治」を読み、会員の一人だと認識する。全国の報告を青森県の課題に照らし合わせ、情報に関連づけてみる。さらに気づいたことを書き出し、友人と話題にするなど、価値ある情報を確実に自分のものにする行動＝「今すぐやれ!」である。